

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>中長期重点取組の1 総合学科の特性を生かし、生徒一人ひとりの能力の伸長を図ります。</p> <p>(1)学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る。 ・授業規律の確立と定期考査等にむけての計画的指導 ・課外授業、補修と面談の充実、模試活用。</p> <p>(2)検定や資格取得の奨励を図る。</p> <p>(3)教員の資質向上と授業内容の改善を図る。 ・教材開発や教員間の授業研究の充実</p> <p>(4)学習の場として図書館の有効利用を図る。 ・調べ学習の場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律はほぼ確立できている。 ・計画的な学習指導はほぼ達成できた。 ・宿題・提出物の徹底を図れた。 ・宿題や予習・復習の達成率、学年を追う毎に低下（生徒アンケート）。 ・2年就職問題集前倒し購入にて指導強化。 ・資格取得合格者数横ばい。 ・模試参加者数例年通りほぼ維持。 ・授業公開週間の保護者参加者減少、教員間の授業公開実施。 ・授業での図書館利用定着化。ビブリ通信11月末で4号。図書利用3250冊以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と家庭学習、特に学習内容の定着が課題。 ・計画的な学習には具体的な教材の指示が大切。 ・少人数講座閉講時の選択科目のアンバランス。 ・日常の学習が校外模試の結果に反映できていない。模試実施後の振り返りが必要。 ・9月以降課外授業ではクラブとの両立課題。 ・3年次は課外の延長で12月センター対策実施。 ・生徒の進路希望や学力に合わせた積極的な各取り組みを学校全体として徹底する必要大。 ・図書館利用生徒は確実に増加傾向だが、図書利用冊数は逆に減少。今後の更なる取組が必要。
進路指導	<p>中長期重点取組の1 総合学科の特性を生かし、生徒一人ひとりの進路希望の実現を図ります。</p> <p>(1)進路意識の向上を図る。 ・キャリア学習・個別面談の充実と活用</p> <p>(2)進路情報の提供と活用を図る。 ・進路ガイダンスと保護者会の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11月末現在就職内定率90%以上。センター試験69名受検予定。推薦入試第1志望ほぼ達成。進路ガイダンス・保護者会を多く実施 ・挨拶、マナー・身だしなみ指導、コミュニケーション能力を継続的に指導。 ・生徒への3年間系統的講話・分野別説明会の実施。 ・各学年1人あたり複数回の個人面談実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試入学生が80%を超える中、粘り強く5教科を学習させることは困難だが、学習環境を整え、個々の適性を見極めながら意欲を継続させ、より高い目標を達成させる体制が必要。 ・厳しさ増す就職について、基礎学力・自己表現力の向上と服装・身だしなみ指導等の強化必要。 ・大学見学・企業見学と科目登録の日程との調整も課題。 ・3年間継続した進学指導体制の確立が急務。

<p>生徒指導</p>	<p>中長期重点取組の2 基本的な生活習慣や規範意識の確立を図ります。 (1)全職員で基本的な生活習慣の指導を行う。 ・服装頭髪指導、昇降口指導・校門指導・登校指導、登下校自転車安全指導、年次連携</p> <p>中長期重点取組の3 自ら主体的で健康な生活ができる力やものを大切にする心の育成を図ります。 (1)保健通信や学習会や文化祭で啓発する。 (2)環境美化を推進する。 (3)生徒の自主性・自治能力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣はおおむね良好。規範意識の指導については根気強く指導。 ・各指導を日替わり・週替わりで連続実施。毎月頭髪・服装・マナー等の全職員による指導体制。 ・服装指導が不徹底に終わる(3学年とも)。 ・進路決定後生活を乱す生徒が見られる。 ・毎月保健通信発行、さらにHPへ掲載。 ・健全育成のための啓蒙活動積み重ね必要。 ・日常の全員清掃実施、清掃道具の不具合や故障箇所発生。 ・生徒会役員自身の意識向上したが、議員や全校の模範としての効果は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪服装指導とものを大切にする心の指導強める。 ・学年間の指導の相違について、学年主任と生指主任の定期的連絡会議を設ける。 ・特別支援・教育相談との連携・協力体制を整える。 ・昼休みの巡回指導を不定期に入れる。 ・保健関係の取り組みは継続。各種提出率は高い。 ・廊下のゴミ分別できており、デホジット機効果大。 ・問題行動後の指導に効果が出ている。ただ、大きなものは少ないが、小さな事案は増加傾向(カンニング類似行為等)。 ・生徒会の社会貢献活動の成果はあるものの、全生徒や教員への啓発・発信に改善の余地有り。
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>中長期重点取組の4 保護者や地域との信頼関係の構築を図り、開かれた学校を目指します。 (1)保護者・地域へ情報発信を積極的に行う。 ・学校公開、HPの充実 ・メール配信保護者登録率の向上 (2)地域貢献・地域開放の推進を図る。 ・公開講座『学びのプラザ』の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開週間春と秋開催、参加者各数名。 ・中学生対象学校公開夏と秋実施。参加者夏生徒・保護者計900名。秋360名。参加者の満足度高(夏季の場合90%以上)。 ・絆ネット登録率保護者90%以上、生徒は36%に留まる。登録率あげる取組必要。毎月学校行事連絡と緊急時の連絡実施。 ・HP12回更新(11月7日現在)。 ・進路保護者説明会参加率70~80%達成。ただし低学年ほど出席率低い。 ・『学びのプラザ』4講座受講者約百名。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介パンフレット『IVY通信』を通して、本校の特徴や状況、前期選抜の実施方法などが周知できた。今後の課題は、内容の刷新。 ・絆ネット(メール配信)で、緊急時の連絡体制整備。今後更なる登録率の向上と定期的な更新が課題。 ・中学生への学校説明会は、夏季(1日2回実施)と秋継続。内容は検討も必要。 ・公開講座は、内容の刷新と地域への広報が課題。 ・校外清掃学年別実施で定着。取組意識の高揚課題。
<p>学校経営品質等</p>	<p>中長期重点取組の4・5 学校組織の改善と組織力の向上を図ります。 (1)危機対応の強化と安心・安全な学校づくりを図る。 ・防災体制の強化 ・情報管理の強化 (2)働きやすい職場づくりを図る。 校内分掌等の連携と情報交換、情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の防災体制等を見直し、HRにて避難訓練及び減災教育年間2回実施。 ・情報メディア校内研修会2回実施。 ・ネットワーク上の大きなトラブルなく安定稼働できた。校務メニューに代わる新システム導入作業に入る。 ・各種校内研修会とその他ミーティング実施。また、関係箇所の連携取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も防災(減災)体制の強化と各種訓練の取り組みが重要。生徒・職員の意識改革も不可欠。 ・校務に関する新システム導入と業者管理委託への検討継続。 ・研修会の日程とテーマ設定難しくなっている。 ・総合学科として12年を経て、学校を取り巻く状況やニーズ変化。学校の組織をこれらの変化にいかに対応させていくか大きな課題。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の要望に応えるため、保護者・地域に向け様々な方法(学校案内、IVY通信、メール配信、HP、市広報)で情報発信できている。 ・多様なニーズを持つ生徒に対して、進学・就職それぞれ多くの進路情報を伝え、多様な進路選択を可能にしている。 ・分掌ごとに部内での役割分担や協力体制が明確にされており、質的に効果の高い運用ができています。 ・校内における情報設備が整っており、ネットワークを利用した高度な学校運営が可能。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職ともに進路実現に向け、個々の能力の引き上げが課題であり、全校的な共通理解とそのシステム化がなされておらず、改善が必要。 ・今までのネットワークの維持・補修、改善が行いにくい状況をできるだけ早く改善する方向に持って行かなければならない。 ・チュータークラスと授業クラスが異なり、クラス作りなどの結束力は弱い(その代わりに部活動が協調性や社会性を習得する重要な場となっている)。 ・分掌毎に執務室が分かれているため、互いの業務内容が見えにくい部分があり、新たに他分掌や年次との仕事の連携がはかりにくいことがある。

(3) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒や保護者にとって、自己実現のツールとして総合学科を選ぶメリットは何なのかを明確に提示していかなければならない。 2. 生徒の向上心を育成していかなければならない。 一度目標を持ち得た生徒は強い。それ故、生徒個々人が、自身は何に向いているのか「自己を見つめさせる」ことが大切であり、学習活動が自分にとって何のために必要なのか、進学であれ就職であれしっかり見つめさせなければならぬ。 3. 生徒たちは授業が本当に理解できているのか、常に確認する必要がある。 年度末に授業毎に生徒アンケートを取り、教員が確認すると共に、生徒自身が自分を振り返るために、自己評価をさせることが重要である。 4. 大学進学者に対して進学目的を明確にするためにも、大学進学後の就職状況の把握を継続して実施すべきである。

(4) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>今年度、指導指針として明示した「時を守り、場を清め、礼を正す」を様々な取り組みの根幹に据えて、組織力向上に結びつけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北勢地域唯一の総合学科高校として、様々なニーズに対応した活気ある授業を通して、生徒一人一人の夢の実現を図る総合学科であることを積極的に発信していく。 ・分掌や年次間の連携をより密に行い、さらなる学校運営の円滑化を図る。また、事務的業務や会議等を改善・精選し、生徒への指導の一層の充実を図る。 ・学習活動の場において、常に自己を見つめさせ、絶えず向上心の育成を図る。特に学力伸長を目指して、日常の授業はもとよりカリキュラムや指導体制の見直し等もさらに進め、上位層・下位層の引き上げを重点的に行う。また、教職員間の情報の共有化により、進路希望のさらなる実現を図る。 ・分掌内での連携やスムーズな引き継ぎができるように、業務内容のマニュアル作成をさらに進める。 ・ネットワークやサーバー管理の改善に向けて、早急に対応していく。